

あのプレゼンの達人によるスペシャル講演会

仕事プライベートも余裕でこなす!
あなたが輝く働き方
小室淑恵さん



(株式会社ワークライフバランス代表取締役)

7月18日(土) 13:30~15:30

6月21日より
受付開始!

- ☆定員 申込先着順197名
- ☆申込 6月21日より受付。メール、FAX、往復はがきで。講演名、住所、氏名、(ふりがな)、年齢、電話番号、保育の有無(子どもの名前、年齢を明記)を明記。
- ☆保育 1歳以上の未就学児15名。保育料1人500円

3回すべてに
参加できる方

●父子チャレンジ! 真夏の3連発

～夏休みはパパとあそぼ!～

- ◆名人が教える手打ちそば 7/26(日)10:00~13:00 エセナおおた
- ◆和風づくりにチャレンジ 8/9(日)10:00~13:00 エセナおおた
- ◆家族みんなで野外バーベキュー (嵐あそびもします) 8/24(日)10:00~14:00 平和島キャンプ場

定員:小学生と男性の保護者15組(申込多数の場合は抽選)

※保護者が男性であれば誰でも申込みできます。

材料費:手打ちそば(1セット)1,000円

嵐(1セット)1,000円

バーベキュー(大人一人)1,000円

(小学生一人)800円

(未就学児一人)500円

申込:メール(携帯可)・FAXで。 7/14(火)必着

申込先着順
受付 7/11 から

エセナおおた映画会

海辺の町で出会った世代の違う女性たち

「赤い鯨と白い鯢」

監督 せんぼんよしこ

出演 香川京子

樹木希林

浅田美代子

宮地真緒

坂野真理



8月1日(土) 13:30~15:30(開場13:00)

エセナおおた多目的ホール

ワークショップ予定

7月18日(土)

★11:00~13:00 「その講座、私も参加できますか? ~情報アクセシビリティを意識しよう~」

★11:00~12:30 「ちょっと得する♪貯蓄と家計のツボ」

★10:00~12:00 「ふち起業家入門」

★15:30~18:00 「女性のための就労フェア」

7月19日(日)

★10:00~12:00 「オレたちが“エセナおおた”にはまったワケ ~男性講座に人が集まる企画と広報戦略~」

★10:00~12:00 「体験! 中屋映子のカラーセラピー ~色で発見! 深層心理~」

★10:30~12:00 「子育て応援団@エセナ ~パパ大好き! おとうさんといっしょ~」

★13:30~13:00 「~ママキャリ! プレゼンツ~ わたらしい子育て応援講座 子育てをもっと楽しみたいあなたに」

★13:30~15:30 「好感度200%アップ ~あなたの人生を豊かに彩る話し方のコツ~」

★13:30~16:30 「あつまれ! おおたの子育て家族応援団体」

★14:00~16:00 「高村花美さんと朗読を楽しむ会 ~いつか来るおひとりさまのステキな生き方・暮らし方~」

★14:00~17:00 「ぼくらの権利って何? ~ストリートチルドレンを通して考える子どもの権利~」

◇びよたまクラブ◇

★親子で Be Happy! 対象:親と乳幼児

毎月第2・第4木曜日 10:30~12:00

★おもちゃであそぼ! 対象:子どもから大人まで

毎月第4土曜日 13:30~16:00

★おはなしの会 対象:子どもから大人まで

毎週水曜日 15:30~

◆折り紙広場

毎月第3土曜日 13:30~16:30

参加費:一回500円と材料費

(小学生は材料費のみ)

◆女性に対する暴力ゼロをめざして

パープルリボン・プロジェクトにご協力

あなたにできることは3つ ①リボンをつくる

②リボンを買う ③リボンを身につける

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-16-4

電話 03-3766-6587 03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

e-mail escena@escenaota.jp

HP URL http://www.escenaota.jp/

メルマガ escenaotamail@yahoo.co.jp

指定管理者 NPO 法人 男女共同参画おおた



INFORMATION エセナおおた 第29号

平成21年6月15日

特集:上野千鶴子さん講演会「おひとりさまの老後を生きる極意」

発行:大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

母の日に関するレポート

母親になるのにベストな国ランキング
日本は158カ国中34位



今年の母の日は5月10日でした。その母の日に向けて、この10年間、「母親になるのにベストな国ランキング」が発表されているのをご存知でしょうか? 新聞の片隅に小さな記事が載っていたので、調べてみました。

民間の国際援助団体「セーブ・ザ・チルドレン」は、母親と子どもたちが最も快適に暮らしやすい国のランキング「母親指標(Mothers' Index)」を毎年発表しています。

「セーブ・ザ・チルドレン」は、「すべての子どもは生まれた瞬間から幸せに生きる権利を持っている」と、1919年に設立され、「子どもの権利条約」の実現をめざして、世界120カ国以上で活動しているNGOです。



母親指標は過去最多158カ国の公的なデータを基に、女性指標と子ども指標をそれぞれ数値化し、総合的に母親と子どもの状態を分析しています。

女性指標は、①産婦死亡率、②現代的な避妊手法の使用、③訓練を受けた医療従事者の立会いの元での出産、④女性の平均余命、⑤女性の正規教育期間、⑥男女間の給与所得の比率、⑦産休・育休制度、⑧女性の国政レベルでの参加率の8つ、子ども指標は、①5歳未満の死亡率、②5歳未満の栄養不良児率、③就学前教育就学率、④初等教育就学率、⑤初等教育就学の男女比、⑥中等教育就学率、⑦安全な水の利用率からなっています。

母親指標の上位は北欧が占め、下位はサハラ砂漠以南のアフリカの国々です。トップと下位の国では母親と子どもの健

康面や教育、経済状態などすべてで、大きな差があります。

日本女性の平均余命86歳に対して、スワジランドの女性は40歳までしか生きられません。アフガニスタン、チャド、コンゴの女性は5年以下の正規教育しか受けられませんが、オーストラリアやニュージーランドでは20年以上の教育を受けています。ランキング下位10カ国では平均24人に一人の女性が出産時に命を落とし、10人のうち9人の女性が子どもの死を経験しています。

上位10カ国はスウェーデン、ノルウェー、オーストラリア、アイスランド、デンマーク、ニュージーランド、フィンランド、アイルランド、ドイツ、オランダでした。アメリカは27位、韓国は50位、中国は57位です。

日本は34位で、2005年にランキング対象国となって以来、最低のランキングです(2005年14位、2006年12位、2007年29位、2008年31位)。子ども指標では5歳未満の死亡率が低いこと、就学率が高いことが評価され、8位でしたが、女性指標は36位と、国政への女性の参加率の低さ、男女間賃金格差などから、総合してランキングを下げる結果となりました。

平成20年の合計特殊出生率は1.37。独身の男性と女性の9割が結婚の意思を持ち、子どもは2人以上を希望しています。子育てをしながら仕事を続けたい女性も増えていますが、希望かなわず退職している女性がたくさんいます。

「仕事」と「結婚・出産・子育て」のどちらかを選ぶのではなく、どちらも選べる社会、子どもと母親が幸せに暮らせる社会は、男性にとっても、若者、高齢者や障がいを持っている人にも暮らしやすい社会といえるのではないのでしょうか。

いつか来る

おひとりさまの老後を生きる極意



2009年3月25日、シニアライフ講座の最終回は、「おひとりさまの老後」が大ヒットした、上野千鶴子さんの講演会でした。世界一長生きの日本女性は、最後は「おひとりさま」になる?! どうすれば安心して老いにつきあっていけるのか? そして心おきなく死ねるのか? その極意を語っていただきました。



☆おひとりさまは増えている

「おひとりさまの老後」は、ずーっとシングルでいるわたし自身の不安を自分で解決するために書きました。ところが、思いがけない部数が売れました。女性の人生は、若い時には結婚によって二股に分かれるように見えたけれど、何年か経てみたら同じ。離別も死別も、シングルアゲインになってしまえばみんな同じ。結婚していようとしていまいと、多くの女性がいずれは一人になると思っていることがよくわかりました。

2006年のデータでは、高齢者の子どもとの同居率は45%と半数を切り、夫婦のみの世帯は35%、一人世帯は16%、足すと51%、一人か夫婦だけで頑張っている人が半分を超えました。60年代には、結婚している人でも「子どもに頼るつもりはない」という人が増え、夫婦だけの世帯でも、どちらか片方が亡くなったら、おひとりさまで暮らす人が増えました。



☆おひとりさまの老後は不安がいっぱい?

おひとりさまが増えているのは、なんととっても楽だからです。「楽」には2つの意味があります。ひとつは親にとって楽。ふたつめは子にとって楽。両方が楽な選択をしたら別居になります。とはいえ、おひとりさまの老後は不安がいっぱいです。

データをみると、女性の単身高齢者の問題は低年金、無年金、貧困です。男性の問題は孤立、孤独、引きこもり。孤独死は圧倒的に男性です。



☆自分の空間、自分の時間、自分のお金

これからの高齢者にとって大事なものは、自分の空間、自分の時間、自分のお金を確保しておくことです。

自分の空間ですが、団塊世代は懸命に働いて、持ち家率が高い世代です。定年まで35年間ローンを払って、家を持っています。私は今、一人暮らしです。家には、私以外に誰もいません。ですから、誰もいない家は本当にのびのびします。

自分で選んだ一人暮らしのお年寄りに、「おかわいそうに」、

「お寂しいでしょう」と、あいさつのように降ってくる言葉がありません。一人でいたくない人、いられない人が一人でいなければならぬ時のことを「寂しい」と言います。ですが、一人でいた時に一人でいられるのは、本当に幸せなことです。

けれど、24時間一人でいる訳ではありません。一人でいたくない時に誰かといられさえすればいい。その誰かは家族でなくてもいい、友だちでもいい。電話もメールもあります。人の声を聞きたくなるのは深夜です。夜中に電話をかけても嫌がらない相手を何人か確保しておく。一人暮らしの高齢者は孤独に耐性があり、高齢者の自殺率は同居高齢者の方が高いというデータもあります。

次に、自分のお金です。年金だけでは不十分なので、プラスアルファが必要です。元気なうちは有償ボランティアをしたり、趣味を活かして講師になる等、なんとかやりくりしましょう。最後は自分の家を抵当にして使いつぶしてあの世に行く。自分の代で作上げた資産は自分の代で使い果たす。子孫に美田は残さないとせば、なんとかやっていけます。



☆自分時間はこわくない

どんなに大好きな職場でも、必ずいつかは「明日から来なくていい」と言われる日が来ます。家族時間にも卒業があります。残るのは自分時間です。自分が自分でいられる時間と空間と仲間がいれば、自分時間は孤独な時間ではありません。

「誰とどこでどのように老いるか」は大きな問題です。家族と暮らすだけが選択肢ではない。「老いる」には特別な意味があります。「老いる」ことは「衰える」こと、弱者になることです。昨日できたことが、今日できなくなる。

介護保険ができた時、ようやく家族以外の他人の手に自分の老いを委ねて死んでいくことができる制度が日本にできたと思いました。先輩のおばあちゃまは、「介護保険というのは、年寄りがかわいくてもかわいくなくてもお世話していただける権利のことです」とおっしゃいました。どんなに欠陥があっても、使いまわしながら、よい制度にしていかなければと考えて、介護を自分の研究テーマにしてみました。



☆自立の意味が違う訳

ところで、介護保険法でいう自立と、障害者自立支援法でいう自立、どちらも自立支援ですが、「自立」の意味がまるで違い

ます。介護保険の自立は、「介護を必要としない状態をいい、障害者自立支援では「サービスを受けて当たり前、助けてもらって自分のしたいことをする」ことが自立です。

なぜ、これほど自立の概念が違うのか。障害者自立支援法は、障害者の人たちが運動に運動を重ね、自力で闘い取ってできた法律です。介護保険法は、家族介護世代の負担を軽くするためにできた法律です。利用者中心といいながら、実は、家族介護が前提になっています。

どんな制度も権利も闘って獲得しない限り、黙ってはいは与えられません。闘って手に入れたものでも、いつの間にか崩されていきます。介護保険もどんどん使い勝手が悪くなっています。

これまでのお年寄り、「お世話を受けるだけで申し訳ない、私のような厄介者が生きているだけで情けない」と思いながらお世話を受けてきました。この人たちは権利主張をなさる訳がありません。



☆ケアされる側の声

介護保険ができて9年が経ち、介護する人たちの側は情報と経験を蓄積して、プロになりました。けれど、ケアされる側はいつまでたってもアマチュアのままです。なぜか? ケアされる側になる時、だれでもつねに初心者だからです。経験の蓄積もありません。利用者本人の声はなかなか表に出てきません。

行政や専門家も、「あなたの事をあなたに代わってわたしが決めてあげよう」と、やってきました。研究者もお年寄りの声を聞いてこなかった。「あなたはこういうお世話を受ける必要のある当事者ですね」と、誰かが決めるのではなく、「私のことは私が決める」、「何をしてほしいかは私に聞いてください」と言えた時に、はじめて当事者になります。日本のお年寄りは、本当にこれまで当事者になってこなかった。しかし、今、還暦を迎えている私たちは団塊世代。私のようにロウるさい世代が介護保険1号被保険者になる頃には、きっといろいろ要求を大きな声で言うようになるだろうと思います。



☆市民が作り出す共助け

私は庶民の手が届くような高齢者施設をお尋ねしながら、「自分の老いを託せる人たちはいるか」、「私にとってこのサービスは使えるか」、「この施設に私は入れるか」と、ユーザー目線で考えてきました。それで出てきたのが、市民がお互いに作り出した共助けの仕組みです。

地域密着で市民の方たちが担い手になっています。私たち研究者は、もはや福祉国家という言葉は使いません。国だけが福祉の担い手ではないからです。地域介護を支えてくれる人々、共助け事業の担い手である福祉 NPO やワーカーズコレクティブのような方たちは、自分のニーズを満たすものが地域にないなら自分たちの手で作り出そうと、地域を変えてきま

した。ないなら、自治体はそういう担い手を育ててほしい。志のある市民が福祉事業をやりたいくても、初期投資のお金がない。だとしたら、街角の空き家を自治体が借り入れてバリアフリー改装をして、思いと志のある市民にそれを託すようなシステムができていけばよいと思います。



☆他人だから、優しくなれる

制度は人が支えます。質のいい人たちが支え手となったサービスを手に入れることのできる地域は日本全国にたくさんはありませんが確実に育っています。

ところで私の老いと死を託せると思った信頼できる施設のパンフレットには「笑顔の大家族」、「親子じゃないのに家族です」と、「家族的」をアピールしています。それならやはり「家族的」であることがいちばんよいと、この人たちも考えているのでしょうか。「家族的とはどういうことですか?」と尋ねると、「そう言やあ、家族にできん介護をしとる」とおっしゃいます。さらに、「家族にできん介護って、何ですか?」と突っ込むと、「優しくなれることね」と返ってきます。他人だから、ここまでだから、5時までだから、距離のある、ほどのある、限度のある介護だから、優しくなれる。家族介護は全く逆です。しかも、家族には過去があります。抑えることのできない苦い思い出もあります。



☆24時間対応のケアシステム

私のようなおひとりさまの女が在宅で一人で老いて一人で死んでいけるための仕組みはどうすればできるのか? 地域介護資源があれば在宅で死ねます。

在宅ターミナルケアは、24時間べったりどなたかにいていただかなくてもいい。日に4回か6回、「どうですか?」、「上野さん 元気?大丈夫ですか?」って、来て下されば OK。その巡回と巡回の間に亡くなっても、一人で生きてきたのだから OK。最後の最後まで一人で自宅にいたい。そのためには、24時間対応の訪問介護・訪問医療・訪問看護、この3点セットがあれば在宅で安心して死んでいけます。



☆当事者主権とは何か

これまで日本の福祉制度には当事者を大事にする姿勢がなかった。私は超高齢社会になってよかったと思います。どんなに偉そうにしていた人も、最後は社会的弱者になります。誰かのお世話になります。自分がお世話を受ける立場になるとはつゆほども思わない人たちが介護保険制度を作ってきました。当事者主権の福祉政策、ニーズ中心の福祉社会を作ったこなかったツケが今、回ってきています。

でも考えて下さい、その福祉政策を支持してきたのは、私たちです。そういう社会を支えてきたのは私たちです。今の社会は変えられます。制度も変えられます。次の選挙にはご自分たちの老後の安心がかかっていると、よくよく考えて貴重な有権者の権利を行使していただきたいと思います。(まとめ 田中)